

東洋局

關極高支第五三三二號

昭和十年五月二十七日

第一課

昭利拾年五月廿七日接受

P  
三

利

關東局警務部長

對 內 外 內  
警 務 關 務 務  
務 務 務 務

局 次 官 長  
記 官 官 官  
次 官 官 官  
局 官 官 官  
保 局 局 局  
察 部 部 部  
察 署 署 署  
(除新領署)

殿 殿 殿 殿 殿

蒙 古 事 情 (第三報)

(分類 A 6.1.2.3 )

目 次

- 一 蒙政部行政科長ノ「蒙旗ニ就テ」ト題タル講演
- 二 將來ノ蒙古(呼倫貝爾)問題ト喇嘛改革ニ關スル甘珠爾管察署酒井管佐ノ研究所見
- 三 蒙政部長大臣ノ蒙政改革ニ關スル談片

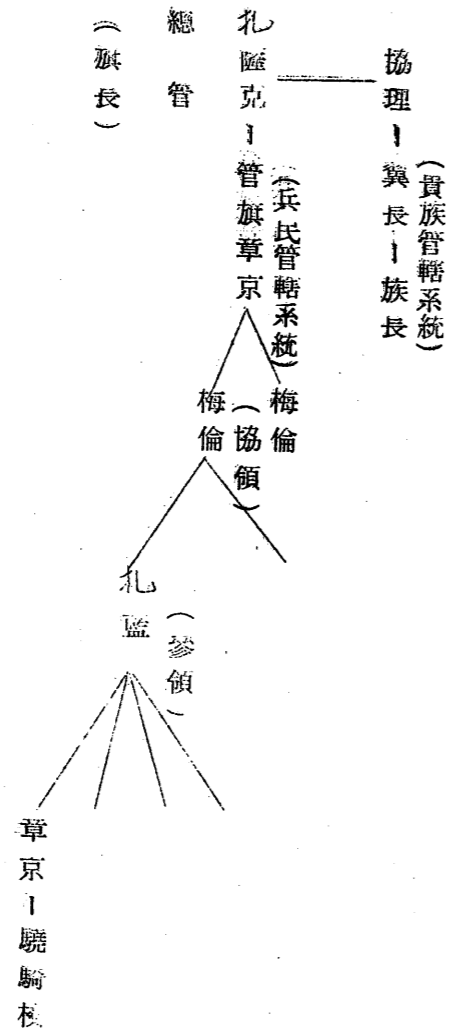
S 161212 947

S 161212 946

REEL No. A-0747

一 蒙政部行政科長ノ一蒙旗ニ就テト題スル講演

先ス旗ノ種類ニ就テ申シマスナラハ、前清時代ニ於キマシテハ薩  
 克、總管ノ二ツニ分カレテキタノデアリマス。ソシテ清朝以前ニ於  
 キマシテハ蒙旗ニハ旗制即チ旗ノ制度ナルモノカナツタノデアリ  
 マシテ、清朝ニナツテ始メテ旗制カ出來タノデアリマス。  
 旗ノ意義ニ就キ申シ上ケマスナラハ、旗ト云フモノハ一ツノ軍區テ  
 アツタノデアリマス、從ツテ以前ノ旗ノ組織ハ軍事的ナ組織ニナツ  
 テ居リマシタ、~~札~~ 薩克ト申シマスノハ現在ノ旗長ニ相當スルモノテ  
 アリマス。旗ノ大体ノ組織ハ~~札~~ 薩克制ノ旗モ總管制ノ旗モ次ノ様ニ  
 ナツテ居ツタノデアリマス。



S 161212 949

S 161212 948

REEL No. A-0747

札 薩克制ト總管制トノ間ニハ若干區別カアルノデアリマス。ココ  
ニ示メシマシタ表ハ~~札~~薩克制ヲ標準ニシテ現ハシタモノデアリマス。  
先程申シ上ケマシタ様ニ、旗ナルモノハ一ツノ軍區ト申シマシタカ  
ラ~~札~~薩克ハ軍區ノ司令即チ現在ノ司令官ノ様ナモノデアリマシテ、實  
際ニ於キマシテハ現在ノ司令官ヨリ尙一步地位ノ高イモノデアリマ  
シタ管旗章京ナルモノハ參謀長ニ類似シテ居リマス。カ參謀長ヨリモ  
一段地位ノ高イモノト云フコトカ出來マス。~~札~~薩克カ一旗ノ全体ノ  
コトヲ總攬スルノデアリマス。管旗章京ニ於キマシテモ~~札~~薩克ノ  
下ニアツテ凡テノ其ノ旗ノ事ヲ處理シテ居タノデアリマスカラ、管  
旗章京ハ非常ナ地位並ヒニ權力ヲ有シ、~~札~~薩克ニ次イテ勢力ヲ持ツ  
テ居タノデアリマス。

次ニ管旗章京ノ下ニ梅倫ナルモノカアリマシタ、梅倫ハ旗ニヨツテ

ソノ人員一~~札~~薩クニ入~~札~~旗モアリ三人ノ旗モアリマシタ。協領ト  
書キマシタノハ梅倫ノコトヲ支那語テハ協領ト云フカラテス。  
コノ梅倫ノ意義ニツイテ申シ上ケマスナラハ梅倫ナルモノハ翼テア  
リマス。~~札~~薩克ヲ中心ニシテ、左右兩翼カ出テキテト云フ様ナ意味  
デアリマシテ、旅團長ニ相當スルモノデアリマス。梅倫ノ下ニ更ニ  
札 監カアリマシタ、之ノ札 監ノ數ハ二乃至十二テア~~札~~マシテ、或ル  
旗ニ於テハ二、或ル旗ニ於テハ八又ハ十二ノ札 監ヲ持ツテ居タノテ  
アリマス。之ノ札 監ハ現在ノ聯隊長ニ相當シテキル譯デアリマス。  
札 監ノ字ヲ支那語ニ譯シ見マスト參領トナリマス。札 監ノ下ニ更ニ  
章京ト云フモノカアリマシタ。コレハ現在ノ大隊長ニ相當スルモノ  
デアリマス。數ハ矢張四、或ハソレ以上ノ處カアリマシタ。章京ノ  
下ニ騎騎校ト云フモノカアリマス。コレハ獨立シタ官職テハナク寧

S 161212 951

S 161212 950

REEL No. A-0747



アリマス。

以上テ大体講話ヲ終リタイト思ヒマスカー一言附加シタイト思ヒマス  
只今蒙古ノ政治ニ於キマシテ合議制ト申シマシタカ蒙古ノ土地並ニ  
經濟問題ニ關シマシテハ凡テカ合議制テアリ團體主義テアサマス。  
蒙古人カ只今占居シテキル土地ハ決シテ蒙古人個人並ニ一、二ノ主  
公ノ功勞ニヨツテ得タモノナク寧ロ之ハ王公並ニ蒙古人全体カ一  
國トナツテ取ツタモノテアリマス。

蒙古人ノ生活習慣ニツキマシテモ團體性カ見ラレマス。蒙古人ハ元  
來遊牧ノ民テアリマスカ若シ一人一人遊牧スルトシマスト野獸其ノ  
他ニ對シ危險ノ防衛カ出來ナイノテアリマス。又氣候ノ關係ヲ見マ  
シテモ一人一人ノ生活テハ防寒ニ不便テアリ、地勢ニ就イテ考ヘマ  
シテモ矢張一人一人テハ非常ナ不便ヲ感スル譯テアリマス。皆様ナ

事モ蒙古人ノ生活カ團體的ニナツタ原因ヲ爲スモノテアラウト  
ヘルノテアリマス。

ニ將來ノ蒙古(呼倫貝爾)問題ト喇嘛改革ニ關スル甘肅省警察署  
并醫佐ノ研究所見

1 廣義ノ蒙古問題

世界ニ其ノ覇ヲ唱ヘタ元朝華カナリシ頃ヨリ長干ヲカサシテ馬  
ヲ御シ僅カニ其ノ存在ヲ認メラレテキタ蒙古遊牧民カ清朝ノ没  
落ト共ニ「ソヴエート」ノ赤キ旋風ニ守リ立テラレタコトハ一  
端ニ値スル、アノ廣大ナ地域ニ軍馬或ハ教育而シテ又一般經濟  
施設ニ其ノ共産的根據ハ根強ク植エ付ケラレツツアル貴族階級  
資産階級(富有高級喇嘛)ハ或ハ殺サレ或ハ家畜ハ沒收セラレ  
喇嘛ハ兵隊ニ勞役ニ使用サレ外觀上外蒙ハ平等ナ世界ヲ想像セ

S 161212 955

S 161212 954

REEL No. A-0747

シメラレテ居ル、加之其ノ對外的銳鋒ハ新疆省國境ヲ走ル「ト  
 ルタシブ」鐵道ノ完成ト相俟ツテ南下ノ勢力ヲ示シ新疆西套蒙  
 古等民國半ノ外蒙ノソレト酷似シツツアルテハナイカ  
 カカル時ニ於テ東方ニ滿洲國ノ成立ナルコトハ彼等ノ計畫ニ一  
 頓挫ヲ來ヤルコトハ考ヘラルルモ各地ニ散在スル蒙古遊牧民ノ  
 將來ニ働キカクル力ハ恐ルヘキモノカアル  
 歴史的ニ見テ蒙古遊牧民彼等ノ謳歌スルモノハ汗即支配者デア  
 リ哲布尊丹巴呼圖克圖即チ「ボビルハン」(活佛)テアル、カ  
 カル無智單純民族ノ統御支配ハ右ニ左ニ容易ナルモノテアルコ  
 トハ清朝ノ政策ヲ見テモ明瞭テアル。今ココニ外蒙ニ於ケル「  
 ソツニート」ノ政策批判ハサテ置キ一步溯リ清朝ニ於ケル對蒙  
 古人政策ヲ見ルニ專制テモナク又自治半自治テモナク專制ト優

S 161212 956

過即チ体裁ノ好イ撲滅策テアツタト言ヘル  
 其ノ最大ノ現ハレトシテ現存スルモノニ喇嘛教カアル、即チ喇  
 嘛教ヲ奉スル喇嘛ヲ優遇シテ之レニ對シテ漢人文化ノ流入ヲ絶  
 對ニ禁止シテ彼等ニ自覺ノ道ヲ避ケシムル政策ヲトツタノデア  
 ル  
 其ノ二百年ニ渡ル政策ハ物ノ見事ニ成功シテ清末迄ハ蒙古地域  
 ニ何事モ起ツテ居ナイノヲ見テモ如何ニソレカ蒙古人ノ遊牧生  
 活ニ適合シテ居タカカ解ル  
 降ツテ民國五族共和ノ政治コレハ失敗ノ途ヲタトツテキル、如何  
 故ナラハソレハ國號ノミニシテ實行サレス西藏ニ於テ然リ烏爾  
 察布察哈爾其ノ他ノ地方ニ於テ實績上ラス最近ニ於テ自治問題  
 ノ論及サレテキル所以ハ何カ

S 161212 957

吾人外蒙ノ事情ヲ否トスルニ於テ蒙古問題ハ滿洲國ニ於ケル王道政治ニ基ク滿蒙共和ノ道ニ歸着スル蒙古人ソレ自身自覺ニ俟ツ政治コレナラサルヘカラス

## 2 狹義ノ蒙古問題

清朝時代ヨリ外蒙ニ次テ蒙古區域トシテ確然トシテキタモノカ  
呼倫貝爾蒙古テアル

呼倫貝爾ハ天然ノ興安嶺ヲ界トシテトテラカト云ヘハ寧ロ外蒙及「ロシア」ニ近イ故ニカカル地理的見地カラ清末民國半幾多ノ問題ハタコニ生シテキル即チ一九一二年ノ外蒙帝政獨立ノ演ニ乘シタコト

一九一五年ノ露支間ノ呼倫貝爾自治條約

一九一七、一九二八年ノ騷擾皆露國或ハ外蒙ト深キ關係カ東亞

11

ノ大勢ト共ニ起ツテキル

故ニ狹義ノ蒙古問題トシテココニ擧クル所以テアル

滿洲國成立以來「ソヴェート」ノ中東鐵路、呼倫貝爾ニ働キカクル力ハ削減サレ外蒙トノ交渉モ一時停頓ノ狀勢ニアル現狀デア  
アルカ内部的ニ見テ幾多ノ問題カ殘ツテキル

即チ民族史ニ述ヘタルカ如ク呼倫貝爾ニハ幾多ノ種族カキルカ  
嚴密ニ云ツテ純蒙古民族ト見ルヘキモノハ新舊「バルグ」ト「  
ブリヤート」ノミト云ヘル

此等ト他種族間ノ融和ノ問題

而シテ又呼倫貝爾ニ於テ最も人口家畜上ヨリ見テ勢力アル遊牧  
民即チ新巴爾虎旗ヲ見ルニ

12

S

161212 959

S

161212 958

旗名	人口	家畜	一人當り比較
左翼旗	一〇、四二八	三五四、七四〇	三四
右翼旗	五、六七七	三一四、八六七	五五、四

トナリ兩翼家畜數一人當り約四十頭トナリ家畜ノミヲ生命トスル  
 蒙古人トシテ大シテ實力アルトハ云ヘナイ  
 コレニ對スル税金ノ問題或ハ又コレニ對スル富強策以上ノ如キハ  
 表面ノ問題トナルヘキモノテアルカ蒙古遊牧民ノ根本的問題即チ  
 先ニ述ヘタ蒙古人自身ノ自覺ニ依ル政治ヲ論スルニ當リテ最モ重  
 要ニシテ且ツ蒙古人自身ノタメニ彼等ノ考ヘナケレハナラナイコ  
 トハ教育問題及喇嘛ニ對スル問題テアル  
 故ニ次ニ少シク喇嘛ニ對シテ考ヘテ見ヨウ

3 喇嘛問題

蒙古人ハ判然ト喇嘛ト俗人ノ二ツニ區別サレル  
 喇嘛教カ蒙古人ニ信仰サレ遊牧民ニトリ唯一ノ宗教トナリソレ  
 カ甚タシク墮落シテ迷信トナリ喇嘛僧ノ腐敗トナツテ蒙古遊牧民ヲ今  
 日アラシメテキル、勿論之ニハ清朝ノ政策カ最大ノ原因ヲナシ  
 テ居ルコトハ云フマテモナイカ喇嘛教ハ我國ノ或宗教ノ如ク甚  
 タシキ搾取教テ或ル程度ニ於テ之ヲ改良改善シナケレハ總テノ  
 點ニ於テ蒙古人ノタメニ災ノ根元ヲナスモノト思フ。今參考迄  
 ニ呼倫貝爾ニ於ケル喇嘛廟數其ノ他ヲ列舉ス(但シ有名ナル大廟ノミ)

廟名	旗屬	位置	建立サレタル時代
五部、ヒツトリ廟 (アンパン廟)	索倫旗南	屯	嘉慶七年 一八〇二年

S 161212 960

S 161212 961



16

トナリ兩旗ヲ合シテ人口ノ約二〇%カ喇嘛テアリ約五人半ニ一人ノ喇嘛坊主カ居ルコトニナル而シテ此等ノ喇嘛ハ毎日徒食シ

旗別	人口	喇嘛	比率
左旗	10,428	1,820	17%
右旗	5,677	1,262	22%

而シテ又新巴爾虎兩旗ノ喇嘛ヲ見ルニ

ハンベン 廟	新巴爾虎 右旗	宣統 元年	一九〇九年
東ンヤリ 廟	"	"	"
西ンヤリ 廟	"	"	"
アツスリ 廟	"	"	"

15

達木博 廟	新巴爾虎 左旗	索倫 旗	シニヘ	乾隆 三〇年	一七八五年
シニヘ 廟	新巴爾虎 左旗	索倫 旗	シニヘ	民國 一七年	一九二八年
タシタルチヤン 廟	"	ハラガシヨウ	シニヘ	乾隆 三〇年	一七八五年
ボヤンチゴカント 廟	陳巴爾虎	バヤンガシヨウ	シニヘ	乾隆 三〇年	一七八五年
オボトク 廟	"	"	シニヘ	乾隆 三〇年	一七八五年
アマグリ 廟	"	"	シニヘ	乾隆 三〇年	一七八五年
アルシヤン 廟 (普濟寺)	"	"	シニヘ	民國 一六年	一九二七年
將軍 廟 (德孚寺)	新巴爾虎 左旗	"	シニヘ	光緒 一三年	一八八七年
甘珠爾 廟	新巴爾虎 兩旗	在 旗	シニヘ	乾隆 三九年	一七七四年
トムルゲイノロクシ 廟	索倫 旗	南 屯	シニヘ	嘉慶 七年	一八〇二年

S 161212 963

S 161212 962

REEL No. A-0747

テ唯遊ヒ半分ニ讀經シ家庭ヨリ食費其ノ他布施ヲ求メテ生活シ  
テ居ルノテアル  
彼等ヲコノ儘放任シテ置クトキハ何時マテ經ツテモ蒙古人ハ昔  
ノ儘ノ蒙古人トシテ其ノ進歩發展ヲ期スコトハ出來ナイテアラ  
ウ

其ノ上各届ノ維持費、修繕費等ハ實ニ大ナルモノテソレモ各蒙  
古人ノ負擔ニナルモノテアル故ニ吾人ハ喇嘛ヲ蒙古人ノ信仰ヲ  
度外視ヤスニ加善スルノ必要ヲ認メル

參考迄ニ外蒙ニ於ケル喇嘛ニ對スル政策ヲ述ヘテ見ル

一 一般人民兒童ヲ寺院ニ入レサル様強制的テナク之ヲ理解ヤシ  
メル

ニ 寺院ニステニ入りタル人民兒童ハ寺院ヨリ皆退カシム

三 遷俗喇嘛ヲ手工業ニ轉向ヤシムル方法トシテ一般兒童ト共ニ  
學校ニ入レ之ヲ教育ス

四 其手工業製作品ノ報酬ハ寺院ノ蓄積財産ヲ以テ之ニ當テル  
此等ノ外蒙ニ於ケル政策即チ宗教否定ニ基イテ行ツテ居ル方法  
テアルカ其ノ手段トシテハ吾人ハ少シク學フ所カアルト思フ  
而レトモ法律命令ヲ以テ喇嘛ニナルコトヲ禁止シ或ハ遷俗ヤシ  
ムルコトハ蒙古人ノ風俗習慣ヲ根本的ニ破壊スルコトニシテ統  
治上決シテ好結果ヲ得ルモノテハナイ、茲ニ於テ吾人ハ教育ノ  
發達ニ伴ヒ自然喇嘛教ニ對スル蒙古人ノ觀念ノ變スルモノナラ  
ントノ見解ノモトニ之レカ救済策トシテハ唯一般兒童ノ教育ト  
相俟ツテ其ノ喇嘛ノ數ヲ減少ヤシムル方法ヲトリ彼等ノ自覺ヲ  
促スコトカ最大ノ急務ナリト確信ス



161212 965



161212 964

4 教育問題

未開民族ノ教育ト云フコトハ各國ノ植民政策ニ照シテソノ如何ニ困難ナルカハ言ヲ俟タナイ  
即チ教育ノ根本精神ヲ誤ルトキ徒ラニ民族的自覺旺盛トナリトモスレバ反動分子ノミヲ養成スル結果トナル、勿論呼倫貝爾ハ日本又ハ滿洲國ノ植民地テハナク滿洲國土ノ一部ナルヲ以テ同一ニ論スル譯ニハユカナイカ既ニ述ヘタル如ク民族ノ複雑ナル呼倫貝爾ニ於ケル教育ハ深甚ノ注意ヲ以テ施スヘキテアル  
然ラハ呼倫貝爾ニ於ケル教育ノ根本精神ハ何カ？吾人ハ蒙古人ノ自覺ト云フコトニ其ノ根本ヲ置イテ教育スルコトテアル  
即チ蒙古人ノ踏ミ來リタル民族的過程ノ歴史ヲ研究シコレニ適合セラル指導精神ヲ普及セシメルコトハ彼等將來ノ死活ノ關鍵テ

S

161212 966

アルト信ス

然ラハカカル根本原理ヲ以テ其ノ具体的教育方法ヲ研究シテ見ヨウ

- 1 即チ各旗ニハ少クトモ二個ノ小學校ヲ設立スルコト而シテ各蒙古語ニ堪能ナル日系教師ヲ配スルコト、而シテ小學課程ヲ終ヘ中等課程ニ入ルトキニハ日本語ニテナス講義ヲ聽講シ得ル程度ニナスコト
- 2 政教ノ中心地タル海拉爾ニ對シ通譯ヲ介シテナス如キ教育ハ到底其ノ徹底ヲ期シ難シ
- 3 政教ノ中心地タル海拉爾ニ各旗各種族ヨリ選抜ヤル兒童ノ小學校ヲ建設シ彼等蒙古人特有ノ排他的種族的偏見軋轢ヲ排除シソノ融合ニ導クコト

S

161212 967

3 而シテ其ノ優秀ナル者ハ日本乃至滿洲國ノ文教ノ中心地ニ留  
學セシムルコト

以上ノ三項目ハ初步ノ教育施設テアル而シテ後第二段ノ中學校  
專門學校ト進ムヘキテアル

而レトモ此處ニ注意スヘキハ蒙古人ノ教育ハ直接或ハ間接ニ彼  
等ノ遊牧生活ニ非常ナル變動ヲ來タスモノナルヲ隸テ此ノ點充  
分留意シテ徐々ニ加善或ハ指導スルコトヲ忘却シテハナラヌ  
而シテ教育ノ發達ト同時ニ蒙古人ノ癌タル衛生問題ハ自然ニ解  
決サレルコトヲ確信シ

文化ノ程度遙カ後方ニ馬ヲ御シ羊ヲ追フ一般蒙古人シカモ各種  
系統ノ異ナル人種ヲ包含スル呼倫貝爾蒙境ココニ殘サレタル間  
題ハ幾多存シ深ク爲政者ノ一考ヲ要スル所テアル

試ニ各地與深ク彼等ノ生活ヲ伺フトキ益々其ノ感ヲ深クスル

ニ蒙政部大臣ノ蒙政改革ニ關スル談片

蒙古民智ハ一般ヲ比較スレハ極メテ低ク政治其他一般ヲ急速ニ改  
革スルコトハ至難ナリ先ツ教育牧畜方面ヨリ着手シ教育十八ヶ年  
計畫ヲ立案シタルカ差當リ興安學校ヲ設立シ蒙古民族ニ對シ中等  
教育ヲ施シ之ヲ師範及實業ニ分ケ卒業ト同時ニ實業科ノ者ヲ各農  
村ニ配屬シ農村ノ直接指導者タラシメ、師範科ノ者ハ各小學校ノ  
教員トシテ派遣スヘク民智ノ向上教育ノ普及ニ付キ徹底的ニ改革  
スルト共ニ一方牧畜ニ關シテハ三十二年計畫ヲ立テ、アブリカ  
ヨリ羊種四百頭ヲ購入シ近々大連經由蒙政部ニ到着スルコトナリ  
リ更ニ之ヲ興安各省ニ分配シ在來ノ羊種ト入替ヲ爲シ徹底的羊種  
改良ヲ圖ルモノニシテ目前ニ成功少クトモ蒙古民族ノ第二世ニ於  
テハ相當ノ成績ヲ得ラルヘシ云々

以

S 161212. 969

S 161212. 968



東亞局

機密 第一三六號

昭和十年六月六日

在海拉爾

領事 米内山庸



外務大臣 廣田弘毅 殿

件名 外蒙古赤化事情ニ關スル件

昭和十年六月六日附機密第二〇六號在滿大使宛  
公信寫別紙送附ス

第一課長

別紙添附

昭和拾年六月拾參日

米内山庸



S 161212- 970

REEL No. A-0747

Handwritten notes and markings at the top right of the document.

東亞局  
機密 第一〇六號

昭和十年六月六日

在海拉爾

領事 米内山庸夫



外務大臣 廣田弘毅 殿

Handwritten signatures and initials, including 'P=K' and 'P=長'.

件名 外蒙古赤化事情ニ關スル件

本信照合票挿入先

門	編	項	目	號
3	4	0	2	16

年六月六日附機密第二〇六號在滿大使宛  
別紙送附ス

昭和拾年六月拾參日  
別紙添附



S 161212 970

REEL No. A-0747

鳥

機密第二〇六號

昭和十年六月六日

在海拉爾

領事 米内山庸夫

在滿 特命全權大使 南次郎 殿

外蒙古赤化事情ニ關スル件

本件ニ關シ當館藤野書記生カ當地興安北警備軍顧問寺田中佐其ノ他  
ニツキ調査セル要領別紙トシテ報告ス  
御査閱相成度

在海拉爾日本領事館

S 161212 971

本信寫送附先 外務大臣 支北平、張家口、哈爾濱、齊々哈爾

滿洲里、鄭家屯、赤峰、承德

在海拉爾日本領事館

S 161212 972

外蒙古赤化事情

(藤野書記生稿)

在海拉爾日本領事館

S 161212 973

外蒙古赤化事情

- 一、外蒙古國境閉鎖及本邦人外國旅行者
- 二、北警備軍ニ於ケル外蒙古事情探查
- 三、外蒙古赤化事情
- 四、外蒙古ト蘇聯トノ關係

在海拉爾日本領事館

S 161212 974

REEL No. A-0747



五一五管

一、外蒙古國境閉鎖及本邦人外國同地旅行者

外蒙古ノ赤化ノ實情ハ所謂外蒙共和國カ國境ヲ閉鎖シ蘇聯人以外ノ外國人ノ旅行ヲ禁止シ居リタル爲（外蒙古旅行ヲナシタルモノハ蘇聯人ヲ除キテハ最近十年間ニ於テ蒙古人郭道甫中國政府ヨリ派遣西北督辦公署ヨリ常駐セシ楊某米人アンドリュース一行ノ古生物探查旅行及本年五月二十四日入蒙ノ英、佛、致各國武官一行ノ外蒙視察團（本件ニ關シテハ本月三日附機密第一九四號報告濟）等極メテ少數ニシテ本邦人ニアリテハ大正十五年庫倫ニ旅行セシ盛島角房、昭和五年外蒙庫倫ヨリ歸國セル醫師小島某（庫倫事情ハ當時在滿洲里領事ヨリ報告）昨年貝爾湖附近ニテ外蒙兵ニ拉致セラレ歸還セル石崎梅次郎、川澄愛之助一行（本件外蒙事情ハ

在海拉爾日本領事館

S 161212 975

客年九月十三日附機密第二一七號報告）及支那人ノ妻トシテ十六年間庫倫ニ滞在在本年同地ヲ追放セラレタル野田千代（當四十四年）等ノミナリ）

不明ト稱スル外ナキモ本年一月當館管内ニ發生セルハルハ事件ニ依リ蒙古兵ノ談話其ノ他ニテ其ノ一部ヲ知ルヲ得タリ

二、北警備軍ニ於ケル外蒙古事情探査

興安北警備軍側ニ於テハ其ノ兵士ハ日系者ヲ除キ全部外蒙古ト同族タル蒙古人タル關係上之ヲ利用シ其ノ實情ヲ臆知セント努メタル處一方彼ノ赤化宣傳ニ依ル禍害ヲモ惧ルル處アリタルカ此際寧ロ若干ノ宣傳ハ受クルトモ彼ノ實情ヲ知ルコトカ滿洲國トシテモ我方トシテモ實益多シトノ見地ヨリ積極的ニ彼等ニ働キ掛ケ所謂外蒙

在海拉爾日本領事館

S 161212 976

共和國赤化ノ實情ヲ知ルニ昂メツツアリ  
外蒙兵ハ最初ハ滿側ヲ極端ニ恐レ決シテ近寄ラザリシカ滿軍兵士  
ヨリ外蒙兵ニ煙草、菓子等ヲ與ヘ次第ニ彼ヲ親和セシメ最近ハ著  
シク接近シ常ニ談笑スルニ至レルカ彼等ハ菓子、煙草等ヲ決シテ  
持チ行カス現場ニテ之ヲ喫シ煙草ノ如キハ袋ヲ棄テ煙草ノミヲ持  
チ行クヲ常トス其ノ理由ヲ聞クニ將校ニ處罰セラルト答フルヲ常  
トス

三、外蒙古赤化事情

一、滿洲國境タル東部地區ノ兵士ハ全部コプト、ウリヤスタイ附  
近ノ出身者ニシテ彼等カ蒙古兵ト談話スル處ヲ聞クニ「外蒙人  
ノ急務ハコミニユニストヲ追放スルニアリ我等蒙古人ハ共ニ共

在海拉爾日本領事館

S 161212 977

ニ蒙古人ノ蒙古ヲ實現シ一日モ早く他國ノ桎梏ヨリ脱セサルヘ  
カラヌ云々」ト語ルヲ常トス、之ニ依リ判斷スルニ外蒙兵カ共  
産化ヲ嫌惡シツツアルハ事實ナリト思ハル、殊ニコプト、ウリ  
ヤスタイノ如キ西部ニ於テハ赤化カ豫想外ニ進捗シ居ラサルモ  
ノノ如シ

一、外蒙古兵士其ノ他ノ談話ヲ綜合スルニ外蒙軍隊ノ共産分子ハ  
三%ナリト推定セラル、勿論右ハ東部國境附近ノ情況ナルカ新  
疆ニ近キ部分ニ於テハ或ハ赤化率幾分右ヨリ濃厚ナランカトモ  
思ハル、モ意外ニ外蒙古人ハ赤化セサルモノ、如シ  
一、外蒙將校ノ大部ハ露人ノ教育ヲ受ケタルブリヤート人ニシテ  
又外蒙古官吏ノ重要分子モ大部分ブリヤート人ナリ、此等ブリヤ

在海拉爾日本領事館

S 161212 978

ト人ノ大部分ハ蘇聯ノ教育ヲ受ケ蒙古人中智識ノ程度高ク尖  
銳ナル赤化分子ナリ

四、外蒙古ト蘇聯トノ關係

一、最モ興味ヲ有スルコトハ外蒙古カ我方カ滿洲國ニ對スル程度  
ニ密接ナル關係ニアリヤ否ヤノ點ナリ彼ニ於テハ蘇聯人ノ顧問  
ヲ有スルハ旅團以上ノ部隊ニ限ラレ其ノ他ハ全部蒙古人ニ一任  
セラレアルニ反シ滿洲國ニ於テハ興安北警備軍ニハ小隊以上ス  
ラ日系者ノ指揮ヲ受クル現状ニアリ、勿論外蒙古成立以來十數  
年ノ歴史ヲ有スルニ反シ我ハ僅々三年ノ歲月ヲ閱スルニ過キサ  
ルモ十數年間ニ於テ果シテ外蒙古カ旅團以下ヲ外蒙古人ニ任ス  
ルモ何等懸念ナキ程赤化セルモノトモ思ハレス或ハ蘇聯ノ外蒙

在海拉爾日本領事館

S 161212 979

古ニ對スル關心ハ我方カ滿洲國ニ對スル經營程白熱化シ居ルモ  
ノニアラサルヤトモ思ハル節アリ

一、今般ハルハ事件交渉委員中滿洲國側ニハ日系中二名ノ委員ア  
ルモ外蒙側ハ背後ハ蘇聯人アリトスルモ表面上ハ全部蒙古人ガ  
リ

一、前記軍隊及今般ノ交渉ニ於ケル日系者ノ數ハ蘇側ヨリ云ヘハ  
外蒙古ニ對スル相當效果アル宣傳ナリトモ思料セラルル處我方  
ノ蒙古人指揮振ニモ相當參考トナルヘキ事項ト思料セラル

以上

在海拉爾日本領事館

S 161212 980

公機密第二九八號

昭和十年六月十四日

外務大臣 廣田弘毅殿

在齊々哈爾  
領事 内田五郎

在滿大使宛六月十四日附機密第四二九號

在記件名公信寫送付ス

件名 蘇聯ノ外蒙鐵道敷設計畫等ニ關スル件

外務省

S 161212- 981

機密第四二九號

昭和十年六月十四日

在滿洲國

特命全權大使 南 次郎殿

蘇聯ノ外蒙鐵道敷設計畫等ニ關スル件  
(當館署長報告)

在齊々哈爾  
領事 内田五郎

本件ニ關シ當地鐵路局側ノ入手セシ情報左記ノ通何等御參考迄報告  
ス

記

蘇聯政府ハ北鐵讓渡後内外蒙古ヲ舉ケテ一大赤化地帯タラシメ更ニ  
魔手ヲ中國ニ延ス可ク既ニ「ザ」鐵「ボルシヤ」「チタ」及「ウエ  
ルフネウージンスク」ノ三地點ヨリ外蒙首都庫倫ヲ目指シテ鐵道建  
設計畫ヲ樹立シ主腦部ニ於テハ交通部ヲ通シ或線ノ如キ起工指令ヲ

外務省

S 161212. 982

發シ工事中ノモノアリ又「チタ」庫倫間ニ航空路開設計畫モアリテ  
 殘餘ノ路線ト共ニ一、九三五年度中ニ着手シ極東外蒙間交通網ノ完  
 備ニ邁進シツツアリ (別紙略圖参照)

1、「ウエルフネウージンスク」―「トロイツコサウスク」―「マ  
 イマチノ」―「キヤホト」―「ウルガ」

2、「チタ」―「ウルガ」

3、「ボルシヤ」―「アリシヤ」―「アルガ」

蘇聯ハ以上ノ如ク外蒙ノミナラス更ニ外蒙ヲ橫斷シテ中國ト産業經  
 濟網ヲ敷設セントシ蘇聯外務人民委員長「リトウイノウ」ハ中國政  
 府ニ對シ外蒙庫倫ヨリ綏遠省歸化城ニ至ル間ノ鐵道共同建設ヲ次ノ  
 如ク提議交渉中ナリト

(一)庫倫、歸化城間鐵道建設工事は關シ蘇聯政府ハ中國政府ト共同シ  
 テ工事ニ當ル

(二)工事ニ關スル經費總額ノ四分ノ三ヲ蘇聯、四分ノ一ヲ中國政府ニ

外務省

8. 12 S 161212- 983

於テ負擔ス

(三)鐵道敷設ニ關スル一切ノ指導監督ハ蘇聯之ニ當ル

(四)鐵道敷設工事終了完成後ハ蘇聯中國兩政府ニ於テ共有ス

(五)鐵道ヨリ得タル收入ハ工事費用支出額ニヨリ分配ス

本信寫送付先 外務大臣、哈爾濱、新京、吉林、奉天、間島、  
 海拉爾、滿洲里、黑河、綏芬河各公館

長

外務省

8. 12 S 161212- 984

公機密第二〇七號

昭和十年六月十四日

在滿洲里

領事代理 後藤安嗣

外務大臣 廣田弘毅 殿

ソ聯ノ外蒙鐵道敷設計劃ニ關スル件

本件ニ關スル六月十四日附在滿大使宛拙信機密第二五三號寫送付ス

外務省

10.7



161212 985

REEL No. A-0747

0129

アジア歴史資料センター

機密第二五三號

昭和十年六月十四日

在滿洲里

領事代理 後藤安嗣

在滿洲國

特命全權大使 南次郎 殿

ソ聯ノ外蒙鐵道敷設計劃ニ關スル件

本件ニ關シザ鐵滿洲里驛長シチヨノフノ外蒙代表一行トノ談話中洩セル言ナリトテ謀者ノ查報セル處ニ依レハソ聯邦ハ一九二〇年以來外蒙ソ聯間ノ連絡鐵道敷設ヲ企圖シチタ、ボルヂヤ、ウエルフネノ三地點ト庫倫間ノ鐵道敷設計劃ヲ樹立シ既ニ右四線ノ實地測量ヲ了シ建設作業ニ着手ノ段取トナリ居レリ、或線ノ如キハ中央部ヨリ起工指令ヲ發セラレ工事中ノモノモアリ尙鐵道敷設ニ當リテハソ聯領土内ノ部分ハソ聯側ニ於テ直接建設シ外蒙領土内ノ部分ハソ聯政府ヨリ優秀ナル技術員ヲ派遣シ指導監督ニ當ラシメ一般下級労働者ハ

10.7

S 161212 986

外務省

外蒙人ヲ使役ス可ク又之等鐵道ノ材料トシテハレールハウラル鐵工場ノ製品ヲ枕木ハチタ附近ノ森林中ヨリ採伐セルモノヲ充用ス可キ豫定ナリト

ソ聯側ハ前記ノ外蒙内國線ヲ建設スルノミナラス更ニ外蒙ヲ横斷シ中華民國トノ連絡鐵道敷設ヲ計劃シソ聯外務人民委員部ハ中國政府ニ對シ庫倫ヨリ綏遠省歸化城ニ至ル間ノ鐵道敷設ヲ提言シ次ノ如キ案項ヲ提議交渉中ナリト

(1) 庫倫、歸化城間鐵道建設工事ニ關シソ聯政府ハ中國政府ト共同シ工事ニ當ル

(2) 工事ニ關スル經費總額四分ノ三ヲソ聯側四分ノ一ヲ中國側ニ於テ負擔ス

(3) 鐵道敷設ニ關スル一切ノ指導監督ハソ聯側之ニ當ル

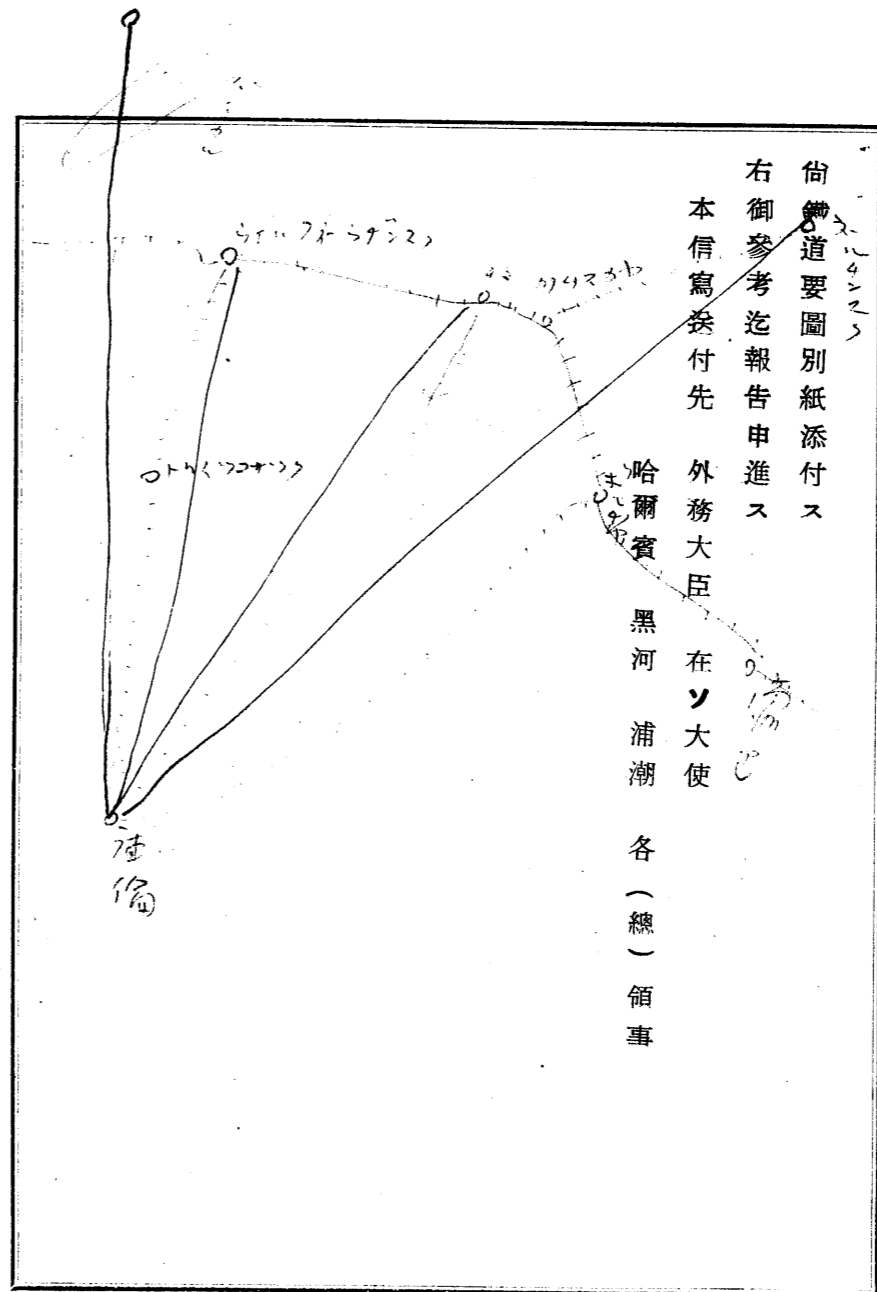
(4) 敷設工事終了後ハ該鐵道ヲソ聯、中國兩國政府ニ於テ共有管理ス

(5) 鐵道ヨリ得タル收入ハ工事費用支出額ニ應シ切分ス

10.7

S 161212 987

外務省



外務省

10.7  
S

161212 988

REEL No. A-0747



東亞局

機密第一四九號

第一編

別紙添附

昭和拾年六月廿六日接受

昭和十年六月二十日

在海拉爾

領事 米内山庸夫

外務大臣 廣田弘毅 殿

件名 外蒙古ノ現状ニ關スル件

昭和十年六月二十日附機密第二二〇號在滿大使

公信寫別紙送附ス



161212

989



寫

機密第二二〇號

昭和十年六月二十日

在海拉爾

領事 米内山 庸夫

在滿

特命全權大使 南次郎 殿

外蒙古ノ現状ニ關スル件

當館藤野書記生調査ニ係ル首題調査何等御參考迄送附ス  
御査閱相成度

本館寫送附先 外務大臣 支北平 張家口 哈爾濱 齊々哈爾

滿洲里 鄭家屯 赤峰 承德

在海拉爾日本領事館

S 161212- 990

外蒙古ノ現状

(藤野書記生稿)

在海拉爾日本領事館

S 161212- 991

外蒙古ノ現状

- 一、外蒙古政府行政機關及現關係
- 二、地方行政機關
- 三、蒙古國民黨ノ情況
- 四、人民對共產黨ノ關係
- 五、教育

在海拉爾日本領事館

S 161212 992

外蒙古ノ現状

一、外蒙古政府行政機關及現關係

所謂外蒙古共和國ハ普通ニハ蒙古人民國（モンゴル、アラト、オロス）ト稱シ公式ニハ蒙古革命人民國（モンゴル、ホビスガルト、アラト、オロス）ト稱ス、國名ヲ「蒙古」ト稱シ「外蒙古」ト稱セザルコトハ特ニ注意ニ値ス、蒙古人ガ地理的ニハゴビ砂漠ノ内外ニ依リ内外蒙古ノ別アルニモ拘ラズ心理的ニハ單ニ蒙古人（モンゴル、ホン）ト自稱其ノ内外ヲ分タザルコトハ蒙古研究者ノ注意ヲ要スル處ナルベシ。

外蒙古ノ議會ハイホ、ホラルダン（大ホラルダン）ニシテ之ハ其ノ權限各國ノ議會ニ類似シ王公、貴族、喇嘛ヲ除ク勤勞民ハ之ガ代表ヲ選舉スルノ權利ヲ附與セラル。

バガ、ホラルダン（小ホラルダン）ハ閣議ニ類似セルモ其レヨリモ廣大ナル權限ヲ有シバガ、ホラルダン議長ハ國務總理ト共ニ外

在海拉爾日本領事館

S 161212 993

蒙古中央行政ノ最高機關タリ、一九二六年及一九三二年ノ改革以來外蒙古ノ中央機關ハ屢次改廢セラレ目下バガ、ホラルダン議長及國務總理ノ下ニ(一)副總理(二人)(二)外交(三)軍務(四)總司令(五)司法(六)教育保健(七)牧畜農務(八)商工郵電交通(九)内防處(「ドトゴド、ハムガラホ、ヤーマン」ト稱シ蘇聯ノオ、ゲ、ベ、ウニ當ル)アリ一九三五年三月ノバガ、ホラルダンニ依リ現在關係左ノ通任命セラレタル通ナリ。

國務總理兼外交部大臣

ゲンツン

第一副總理

チヨイボルサン

第二副總理兼軍務大臣兼總司令

デミツト

牧畜農務大臣

ドフチン

教育保健大臣

モンホ

商工郵電交通大臣

ウイブイベト

司法大臣

ドインドイツブ

在海拉爾日本領事館

S 161212 994

内防處長

ナムサライ

尙小ホラルダン議長ハアムールナルベシ

前記關係ノ中ゲンツン、デミツト、ドインドイツブ、ナムサライ

ハ何レモ責任、チヨイボルサンハ牧畜農務ヨリ轉ジタルモノニシ

テゲンツン、アムール、チヨイボルサン、ナムサライハ共ニ建國

以來國民黨幹部又ハ關係トシテ要職ニ當リ來レリ。

第二副總理兼軍務大臣兼總司令タルデミツト(一九〇〇年生)ハ

外蒙古)成立前蘇聯ノ使暎セルスヘバートルノ部下タリ、蘇軍ノ

庫倫占領後ハケルレン方面ニ轉戦セリ一九二五年騎兵學校校長、

一九二六―二九年蘇聯ニ留學一九三〇年軍事會議議長、一九三二

年以來現職ニ就任セルモノナリ。

在海拉爾日本領事館

S 161212 995

二、地方行政機關

各旗ニ中央ノ任命セル長官ヲ置キ中央ノ指令ニ依リ行政ニ當ル、中央地方ヲ通ジ重要政務ニ參與スルモノハ殆ド全部莫斯科又ハ其ノ他ノ地ニ於テ共產教育ヲ受ケタル者ニシテ主トシテブリヤート蒙古人ナリ、然シテ王公、貴族、喇嘛ハ執レモ政治ニ參與スルヲ得ズ

B

在海拉爾日本領事館

S

161212-996

REEL No. A-0747

0136

アジア歴史資料センター

三、蒙古革命國民黨（外蒙共產黨）ノ情況

外蒙共產黨ハ蒙古革命國民黨（モンゴルン、ホビスガルト、アラトシ、ナム）略稱ヲ蒙古國民黨（モンゴルン、アラトシ、ナム）ト稱ス建國以來外蒙古ノ指導團體トシテ同國ヲ牛耳リ黨本部ハ直捷蘇聯共產黨ノ指令ヲ受ケ來リタルガ一九三二年ノ改革以來黨ハ表面上國政ノ指導ヨリ手ヲ引キ國權ハ全部政府ニ集中スルコトトナリ尙同年同黨ト對立ノ關係ニ在リタル蒙古革命青年黨ハ同黨ニ合併、清黨ノ結果黨員四萬二千ナリシ處一萬二千人トナリタリ。庫倫（オラン、バートル、ホト）ニ同黨中央執行委員會ヲ置キ各旗ノ執行支部ヲ統轄シ現在ニ於テモ外蒙古諸行政ニ絕對權ヲ有セルモノト想像セラル。黨本部ハ第三インタナショナルノ指令ヲ受ケ蒙古革命國民黨中央執行委員長ハハエンシスシヤルバ（譯音）ナルブリヤート蒙古人ナル由

在海拉爾日本領事館

S 161212 997

四、人民對共產黨ノ關係

貧困者、不具廢疾者等ハ政府ノ扶助ニ依リ生計ヲ維持スルヲ得又學生ハ本業後ハ顯職ニ就クヲ得ルヲ以テ前記國民黨ニ大ニ共鳴シ歡迎シ居ルモノ一般ノ人ハ彼等ノ信仰ノ中心タル喇嘛教ニ壓迫ヲ加ヘ之ヲ排撃シツツアルヲ以テ心中甚ダ面白カラザル念ヲ懷クモ不得已服從シ居ル現狀ナルカ如シ。軍隊内ニ於ケル共產黨員ハ三多乃至五多ト稱セラレ將校ハ全部黨員タルブリヤート蒙古人ヲ以テ獨占セラレ居レルヲ以テ一般兵士ハ甚シク共產黨ヲ嫌惡シ居レリ。王公、貴族、喇嘛等ハ勢力ヲ根本的ニ削除セラレ財産ハ國有トセラレ無能力者トシテ取扱ハレ居レルヲ以テ共產黨ニ對スル憎惡ノ念切ナルモノアリ。一九三〇年、一九三二年、一九三三年ニ勃發セル暴動ハ其ノ表現ノ一ト見ルベキモノナリ。

在海拉爾日本領事館

S 161212 998

尙外蒙古ニ容レラレザルモノニシテ國外及内蒙古ニ亡命中ノモノ  
相當アリ。

在海拉爾日本領事館

S

161212 999

REEL No. A-0747

0138

アジア歴史資料センター

五、教 育

一九三四年以來外蒙古ニ於テハ漸次教育ニ力ヲ注キ初メ或ハ學校ノ整理或ハ文盲撲滅運動等鋭意腐心中ニシテ一九三四年現在ノ外蒙古ニ於ケル教育施設概況ハ左ノ如シ

勞働大學校	學生	一五〇	(三年卒業)
中 學 校	教 師	五	
	生徒	六〇〇	( 同前 )
	教員	三二	( 同前 )
小 學 校	兒 童	三、一二五	( 同前 )
	教員	一二七	( 同前 )
師範學校	學生	三〇〇	( 同前 )
	教員	二一〇	( 同前 )

小學校ハ一九二六年制定セラレタル小學校令ニ準據スルモノナルカ一九三二年ノ改革ニ依リ整理行ハレタル由ニテ全部官立(學用品全部ヲ官給ス)蒙古語ヲ主トシ露語ヲモ教授シ共產主義的教育ヲ施シ、中學校以上モ小學校ト同様ニシテ男女共學制ナリ。

在海拉爾日本領事館

S 161212 1000

一九三四年ニ於ケル外蒙古教育費ハ中央地方ヲ合計シ二、一九一、四〇トタリク(一トタリクハ支那一弗ト殆ト同價)ナリ。

以上

在海拉爾日本領事館

S 161212 1001